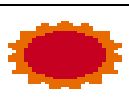
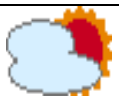
1. 令和4年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△41．8ポイント。建設業では12ポイント上がったが、製造業は19ポイント、サービス業は18ポイント、小売業は12ポイント下がった。前期の10～12月の△34．6ポイントから7．2ポイントマイナスとなった。

業種 ＼ 項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 60 (△ 57)	△ 61 (△ 44)	△ 12 (△ 8)	△ 21 (△ 13)	△ 45 (△ 21)	△ 34 (△ 38)	△ 61 (△ 57)	△ 55 (△ 38)	△ 61 (△ 22)	△ 42 (△ 22)
採算	△ 33 (△ 47)	△ 47 (△ 44)	△ 32 (△ 3)	△ 37 (△ 27)	△ 44 (△ 32)	△ 22 (△ 38)	△ 46 (△ 34)	△ 42 (△ 42)	△ 53 (△ 17)	△ 32 (△ 16)
資金繰り	△ 29 (△ 31)	△ 29 (△ 37)	△ 28 (△ 20)	△ 30 (△ 24)	△ 44 (△ 11)	△ 44 (△ 37)	△ 36 (△ 35)	△ 34 (△ 29)	△ 51 (△ 27)	△ 41 (△ 28)
業況	△ 44 (△ 56)	△ 56 (△ 47)	△ 22 (△ 3)	△ 34 (△ 17)	△ 44 (△ 45)	△ 56 (△ 63)	△ 58 (△ 46)	△ 57 (△ 38)	△ 41 (△ 23)	△ 26 (△ 23)
経営上の当面する問題点 1位	材料価格の上昇		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		材料等仕入単価の上昇	
経営上の当面する問題点 2位	民間需要の停滞		原材料価格の上昇		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
経営上の当面する問題点 3位	官公需要の停滞		従業員の確保難		新規参入企業の増加		仕入単価の上昇		利用者ニーズの変化への対応	
業種別コメント	業況が好転したと回答した企業はなく、マイナス44ポイントとなった。前期と比較すると12ポイント改善しているが、公共工事の予算削減やコロナ禍における民間需要の停滞が予想されることから来期見通しは12ポイントマイナスとなっている。		新型コロナウイルス感染症の影響で原材料の不足や価格が高騰していることなどにより、今期は全項目でマイナスとなった。市内中小企業においては今後も材料不足と価格高騰化の流れは続くことが予想され、来期見通しについても全項目でマイナスとなっている。		取引先企業の業況悪化に伴い売上高が24ポイントマイナス、資金繰りが33ポイントマイナスとなっている。来期見通しについても12ポイントマイナスとなっている。今後は仕入れ価格の上昇に対応するため、価格転嫁に取り組む必要がある。		前期まではコロナ禍においても食品スーパーやドラッグストアなどの生活必需品を取り扱う業種を中心に業況は若干ではあるが回復傾向にあった。しかし、年明けからの新規感染者数の急増により消費者の外出自粛ムードが高まったことで業況はマイナス8ポイントとなった。来期見通しについても横ばいとなっている。		県内での新型コロナウイルス感染拡大により、まん延防止等重点措置が適用されたことで飲食店に対して時短営業要請あったこと。また、食材価格の高騰などの要因により飲食業を中心に各項目ともに大幅にマイナスとなっている。今後も感染者数減少の兆しが見えないことから来期見通しについても厳しい状況が予想される。	

				
とくに好調 (50≦DI)	好調 (25≦DI<50)	まあまあ (0≦DI<25)	不振 (△25≦DI<0)	きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※(　)は前回調査時のD･I値